

春

過去から吹く風
そして・・・

大和茂

鬼のようなあなたに

鏡をわたして

そうでないわたしは

自分をしらぬい

川の流れに逆らつて
立ち止まっている
もとめる魚は
まだ、こない

不安な気持ちから
あらゆる方向に走る
多くの悩みから
走る方向はひろがる

真上に住む自分が眺めている
世界を広げてくれる
僕はそれを知らない
遠くをみようそれに気付くから

目を閉じなさい

息を整えなさい

空を描きなさい

その下にあなたはいります

迷うことはない

通過点があるから

迷うことはない

ゴールなんてないのだから

同じ失敗を繰り返す
自分が笑う
考えて
もう一度

僕のなかからひろがっていく
不安、不満、誘惑たちを
つつみこんでくれるのは
それもまた僕なんだけど

人の心はよめないけど
かんがえることはできる
わたしの心のなかの人の目が
わたしをおさえてくれる

川の表面にみえるのはは
流れにもがいてるモノとと
軽いモノなんだ
思慮深いモノとと
重きモノはは
目立たなくひつそりとしている

欲望を入れた器

小さいと、すぐに満杯に

溺れ、溢れだす

器は大きく

余裕をもった量がいい

不安になるのが
人だけれど
未来を考えられるのもも
人だから

オロオロしないで
かといってギラギラしないで
好奇心をもって
かといってすべてに手をださないで
頭をよく使って
かといって口はよく使わないので
それを心がけずには自然にしてある

ひとにやさしくするのって

ムズカシイ

でもね

せめて

せめて

みらいのじぶんには

やさしくしようよ

僕たちは
理想に向かって
生きている
捨ててはいけない
渡してもいけない